

諏訪大社式年造営御柱大祭

長野県無形民俗文化財

御柱祭

御柱祭とは

七年に一度、遙か昔からこの諏訪の地で寅と申の年に執り行われる神事「式年造営御柱大祭」(しきねんぞうえいみはしらたいさい)。

宝殿を造営し、そして御用材を選び、山から曳き、境内の四隅に建てる一連の神事は通称「御柱祭」(おんばしらたいさい)と呼ばれ、諏訪大社(すわたいしや)の中でも最大にして最も重要な神事とされています。

1200年以上も連続と受け継がれ、諏訪6市町村の氏子たちが奉仕する御柱祭は、諏訪の誇り高き伝統文化でもあります。

上社の御柱祭

《山出し》

8本の御柱は八ヶ岳の麓、綱置場(つな置きば)から曳行が始まります。特徴的なめどでこが民家の軒先に触れそうなほど近づくと難所を越えて、斜度27度の木落しへ。空から舞い



上社《山出し》

降りるように急坂を下り落ちます。そして雪解けて冷たい宮川の川越しあとは、御柱屋敷(おんばしらやしき)で里曳きを待ちます。

《里曳き》

騎馬行列や長持ち、花笠踊り、龍神の舞などが繰り出して、華やかに御柱行列を盛り上げます。御柱屋敷より本宮と前宮へ各4本ずつ曳きつけられた御柱は、めどでこを外し、柱の先端を三角錐状に切り落とす「冠落し」を行います。各神社の境内に建てられ、御神木としての威儀を正します。

下社の御柱祭

《山出し》

山腹の棚木場(たなごば)で1年間眠っていた8本の御柱が、天をつくような木遣りの声で眼を覚めます。東俣川の溪谷沿いに曳行され、集落の細い道を進むと、最大斜度35度、距離100mの木落し坂へ。御柱は、一気に轟音を響かせ坂を滑り落ちます。その後注連掛(しめかけ)へ曳きつけられます。

《里曳き》

新緑のまぶしい5月中旬、町中が華やかな雰囲気に包まれます。神賑わいの長持ち、騎馬行列、花笠踊りなどが繰り広げられます。御柱は注連掛から春宮、秋宮へ向かい、「冠落し」を行って、各神社の境内に建てられ、山の樫の大木は神となるのです。



下社《里曳き(建御柱)》

諏訪大社



諏訪大社 下社 春宮
諏訪郡下諏訪町193 TEL.0266-27-8316



諏訪大社 上社 前宮
茅野市宮川2030 TEL.0266-72-1606



諏訪大社 下社 秋宮
諏訪郡下諏訪町5828 TEL.0266-27-8035



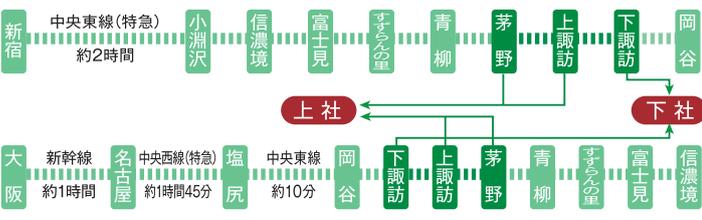
諏訪大社 上社 本宮
諏訪市中洲宮山1 TEL.0266-52-1919

諏訪大社は、長野県の諏訪の周辺に4箇所のある内地をもつ神社です。信濃國一之宮。神位は正一位。全国各地にある諏訪神社の総本社であり、国内にある最も古い神社の一つとされており。

諏訪大社の歴史は大変古く古事記の中では出雲を舞台に国譲りに反対して諏訪までやってきて、そこに国を築いたとあり、また日本書紀には持統天皇が勅使を派遣したと書かれています。諏訪大社の特徴は、本殿と呼ばれる建物がありません。古代の神社には社殿がなかったと言われています。諏訪大社はその古くからの姿を残しており、秋宮は一位の木を春宮は杉の木を御神木とし、上社は御山を御神体として、自然のままの形で拝してあります。

諏訪明神は古くは風・水の守護神で五穀豊穡を司る神。また武勇の神として広く信仰され現在は生命の根源・生活の源を守る神として御神徳は広大無辺で多くの方が参拝に訪れます。

● 電車でのアクセス



● 車でのアクセス

